

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171700261		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	このすけアセンターそよ風		
所在地	埼玉県鴻巣市天神4-32-1		
自己評価作成日	令和3年8月13日	評価結果市町村受理日	令和3年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和3年9月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりのその人らしさを大切にしている。何気なく発言された要望を出来るだけ取り入れ、時間だから何かをするではなく、時をゆったりと気の合う仲間とおしゃべりや家事をやって頂きながら過ごして頂いている。家族様との信頼関係を築き、大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・コロナ禍の中、利用者の思いを大切に、ラーメンの麺から手作りされたり、地元業者の協力を得て、練り切りなど和菓子作りに挑戦されるなど、利用者が笑顔で楽しい時間を過ごされるよう取り組まれている。
 ・運営推進会議は、コロナ禍の中、会議開催に替え、書面にて報告をし、事業所の取り組みについての評価や意見を頂き、運営やサービス向上に活かすと共に地域に開かれた事業所として質の確保を図られている。
 ・目標達成計画については、前年度は外部評価の実施は緩和されたものの、災害対策として、定期訓練では土砂災害の発生を想定し、避難訓練に取り組まれるほか、地域の協力者確保に向けて取り組まれていることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考えた理念を共有し、住み慣れた地域で一人一人が安心して生活が送れるようにしている。	「笑顔で生活、安心・安全な環境」という理念のもと、利用者の思いと生活リズムを大切に、その人らしく、笑顔で生き生きと過ごされるよう支援に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事や祭り等で地域と関わる機会を作り利用者が地域住民と交流できるような環境作りをしていたが、コロナ禍により中止になってしまい、交流の機会が減ってしまった。	現在はコロナ禍の中、自粛をされているが、散歩や買い物に出かけたり、例年だと、地域の祭りなどで地域の方との交流を楽しまれるなど、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援をされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市役所、地域包括支援センターを通じこのすケアセンターそよ風の存在意義を伝え、いつでもどんなことでも相談に応じることを発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍以降は運営推進会議を文書による意見交換での開催とし、参加者の方に必ず意見を頂き、また、意見に関しての取り組み内容・結果を議事録に載せて伝えている。	コロナ禍の中、メンバーが揃っての会議開催に替え、書面にて報告をし、事業所の取り組みについての評価や意見をいただき、事業所運営やサービスの向上に活かすと共に地域に開かれた事業所として質の確保を図られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	センター長を中心に市の担当窓口へ赴き、相談や書類申請を行い、協力関係を築けるよう努めている。	行政担当者とは報告・連絡・相談時にコミュニケーションを図られている。また、マスク・ゴム手袋・アルコール消毒液などを頂くなど、良好な連携関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月委員会を開き会議の内容を共有し、また研修を通し身体拘束についての理解を深め、正しく支援できるよう職員同士声を掛け合い、気を付けている。	法人研修や身体拘束廃止委員会が定期的に行われ、全職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、言葉での拘束を含め、行動の抑制をしないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは、不適切な介護とはどんなことなのかを学び、研修を通してされる側やする側の心理を理解し、虐待をしない・させない環境作りをするにはどうしたらよいか、話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修、勉強会を通し、統一した知識を職員は身につけている。成年後見人制度にも柔軟な対応をし、管理者、計画作成担当者が対応・支援を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は丁寧な説明を行い、不安・疑問がないかを確認しながら納得して頂くような対応をしている。料金、緊急時の対応についても説明、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍により家族会、運営推進会議が中止となっているが、随時利用者様の様子を家族様へ電話にて報告を行い、その際に意見、要望を聞けるよう配慮している。利用者様、家族様からの意見、要望はその都度周知をし、統一できるようにしている。	「寿司・うどんが食べたい」など、利用者の要望に応えられている。家族とは連絡時に意見・要望を聴き取られ、職員間で話し合い、事業所運営やサービスに活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングをはじめ、個別面談を数か月ごとに行い、職員の意見や現状を聞き取り、質の向上につなげられるよう取り組んでいる。	定例会議や個別面談で意見・提案を聴きとられている、発言し易い職場環境がつけられ、家族とのコミュニケーション方法や新人職員の指導方法など、具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談を定期的に行うようにし、日頃から声掛けをし、会話を大事に職員がストレス、不安を感じないような働きやすい職場づくりを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、全体会議、ミーティングを通し職員が成長できる場を作る。日々の業務の中で適切なケアが出来るよう個人に合わせた指導を行う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により交流会や相互訪問は中止になっているが、リモート会議にて他施設の取り組みを聞き、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様との会話を通して意見を聞き、現状を細かく観察し、また家族様やケアマネジャーからも詳しくお話を伺い、不安の元を取り除いて安心して生活を送って頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談や見学、申し込み時にゆっくりお話を伺い、困っていること、不安なことに対してどんな支援ができるか提示し、安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様と家族様が必要としていることを見分け、場面に応じて他事業所のサービスにつながる対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様を尊重することを優先し、利用者様の身近で生活を支援することで信頼関係を築くことに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡や書類の受け渡しの際に生活状況を伝えると共に、家族様から見た本人様、本人様へのお気持ち等をお聞きして利用者様が生活しやすくなるよう関係づくりに力を入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前近所に住まれていた方や友人の方からの電話や手紙などが届いた際は、家族様に連絡をし、確認をしたうえで交流をして頂いている。	最近では自粛されているが、近くの神社に初詣に出かけられたり、季節毎に花の名所や地域の催事に出かけられるなど、これまでの関係が途切れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話の仲介や、場合によっては席の移動を試みながら一人ひとりの交流を見守り、孤立することがないよう温かい環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用がなくても家族様からの相談には親身に対応し、施設外で声を掛けられてもそれまでと変わらず、お気持ちに寄り添った支援を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話をし、コミュニケーションをとり、何でも伝えやすい関係づくりに努めている。	利用者一人ひとりとのコミュニケーションと信頼関係を大切に、声かけを行い、思いや意向を把握されている。困難な利用者についても、表情や仕草から汲み取り返り、利用者本位に検討をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や家族様との会話、ケアマネージャーからの情報により、生活歴、これまでの環境を把握し、大きな変化がなく、生活が送れるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活リズムを把握し、どんなことに興味があるか、その日その日での心身状態の変化に気付くよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1人1人のADL、IADLを理解し、要望、意見を取り入れながらカンファレンスを行い、現状に合った計画を作成している。	利用者・家族から思いや意向を聴きとり、医師・看護師からの指示を含め、全職員の意見やアイデアを活かし、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々気になる事は口頭で申し送りや記録にして情報共有し、小さな気付きを集め、利用者様が生活を安心して送れるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な状況にも焦らず、状況、要望に対して柔軟な対応を心掛けている。必要に応じてどんなサービスを提供できるかその都度検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や自治会長と、運営推進会議にて文書による意見交換を行っているが、コロナ禍により利用者様と地域社会との関りが難しくなってしまった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は利用者様、家族様が希望されている所として、受診は御家族様の協力を得ている。現状報告の為同行や、手紙を渡し、医療関係者との連携を図っている。	入居時に利用者・家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診支援は家族対応を基本とし、必要な情報提供を行ない、適切な診療が受けられるよう支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良や事故発生時には施設内看護師、訪問看護師に相談し、適切な対応が出来る様に心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員や御家族様と医療関係者と情報交換を行い、状況把握に努めている。受診や入院も往診医療機関に行くことが多いので、月2回の往診にて直接主治医、看護師と話し、利用者様の生活状況も細かく伝えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にも重度化した場合についての希望を伺い、生活の中で変化がみられた際にはその都度本人様をはじめ、御家族様と話し合い、医師、訪問看護師と連携をし、情報共有を行い、状況の変化に職員全員で取り組んでいる。	重度化・終末期に関しては、家族に対して事業所として出来ること出来ないこと、良いことも悪いことも、正確な情報を伝えるよう取り組まれている。家族の思いに添い、看取りまで含めた対応がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受け、マニュアルを作成することで適切な応急処置を職員が出来る様に努めている。 1階事務所にAEDが設置してあり、いざという時は使用できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を行い、内容も色々な想定をし、どんな災害にも対応できるよう消防署からの指導を受けながら避難訓練を行っている。	定期訓練では土砂災害を想定し、上階への避難誘導訓練に取り組まれている。また、備蓄品の整備、火災や地震発生時の避難方法や対処法を検討されるなど、体制整備に努められている。	災害対策には十分取り組まれています。今期、新任職員の採用があったことから、災害時の組織対応力の維持向上に向けた継続的な取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な声掛けを心掛け、常に尊敬の思いで対応させて頂いている。また、プライバシーを侵害しないよう利用者様に関する話を大きな声でしない等気を付けている。	トイレ誘導時には耳元で小さく声がけし、日常生活でも無理強いすることなく、利用者のリズムやペースを大切に対処されるなど、利用者の人格を尊重した対応、排泄や入浴時の羞恥心に対する配慮など、きめ細かな対応がとられている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でも言える環境作りをし、意思疎通が難しい利用者様にはより多く接し、表情などで思いをくみ取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の生活リズムを把握したうえで、その日の気分によって何をして過ごしたいのか、出来る限り希望に沿えるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの色や形など、衣類の調達には家族様にもご協力いただき、一緒に衣替えをしたり、服選びを行っている。定期的にヘアカット(訪問理美容)の希望にも応じている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材、果物やメニューで季節を感じて頂いたり、何が食べたいか希望を聞いて献立に取り入れたり、食事の時間が楽しくなるように努め、食後の片づけ、テーブル拭き等は利用者様が中心となり一緒に出来るよう支援している。	利用者個々の力に合わせ、食事の準備や後片付けを職員と共に行っている。催事時には好きな寿司や和菓子が提供されるほか、利用者の要望でラーメンやうどんを手作りされたり、地元の業者の協力を得て和菓子づくりに挑戦されるなど、食の楽しみを大切にした支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人がどのくらい摂取できているかを記入し、摂取量が少ない方には主治医に相談し、栄養状態や身体状態の確認をしたり、本人様、家族様に好みを伺い、食べやすいもの飲みやすいものを摂取して頂くよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは一人一人に声掛けをし、異常に気付けるよう努めている。訪問歯科と連携をし、口腔にかかわる小さなことも共有し、健康な口腔内保持を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本に、定時のトイレ誘導や声掛けを行い、一人一人の排泄パターンを把握し、オムツ対応しないように自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄を基本とし、利用者一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、事前誘導を心掛けるなど、きめ細かなケアをされ、負担軽減と自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便確認を行い、情報共有をし、水分を多く摂取して頂いて、体操等で体を動かしてもらおう。便秘予防するとともに加齢に伴い排便しにくい場合には主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日、時間は概ね決まっているが、温度を好みに調節したり、入浴剤や季節ごとにゆず、菖蒲を入れたりして入浴を楽しんで頂くよう努めている。お風呂が好きで、毎日入りたい、という方はできる限り対応できるよう努めている。	週2回、午後入浴を基本とし、できる範囲で利用者の希望に沿った支援をされている。柚子湯や菖蒲湯なども楽しまれているほか、安全対策も取られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠が一番と考え、安眠できる環境作り、寝具、室温の調整をし、発汗等は巡視時に確認している。日中は体操などのレクリエーションをし、安眠につながるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬担当者を決め、薬の管理には細心の注意、気配りをし、誤薬をしない、させないを徹底している。薬の変更の情報共有をし、服薬介助時は職員間で声だし確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を行う事で生きがい、役割を持って生活できる方に関しては、それが行えるよう支援している。行事は利用者様の意見を聞き、取り入れながら楽しんで貰えるような企画を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により感染症対策を最優先とさせていただいている為、外出をしていただいております。感染状況をみながら、散歩や家族様との外出など楽しんでいただけるようになると思う。	最近では自粛されているが、散歩や買い物を楽しまれているほか、地域の祭りや季節の花見、水族館に出かけられるなど、利用者の希望を大切にした支援に取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しいものは職員に伝えていただき、預り金から購入している。コロナ禍により買い物に出掛けることが出来ない状況である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が希望した時は電話連絡を行ない、電話や手紙、本人様への贈り物が届いたりした時も柔軟な対応をし、手紙やお礼の電話なども自由に出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂くよう、置物、飾り物を飾ったり、手作業レクで作って頂き、ゆったりとした空間づくりを心掛けている。	玄関ホールには季節に合わせて、満月にスキとウサギが描かれた創作貼り絵が飾られ、季節感ある装飾となっている。また、リビングにはソファが置かれ、テレビを観たり、おしゃべりを楽しまれるなど、利用者が落ち着いて、ゆっくり過ごせる設えとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事を摂る席は決まっているが、出来るだけ気の合う同士にし、時には席を変えるなど、誰とでも話せるように支援をしたり、ベンチ、ソファなどで自由に時間を過ごせるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物、好きな物を自由に持ち込んで頂いている。利用者様が必要と仰る物は家族様へ連絡し、用意して頂いている。	馴染みの家具や寝具が持ち込まれるほか、好きなジャイアンツのカレンダーが飾られるなど、利用者が気持ち良く過ごされるよう工夫をされている。また、共用スペースを含め、毎日掃除が行われ、清潔な環境づくりに努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の行動を抑制をせず、できること、やりたいことは自由にして頂き、安全に生活を送って頂ける様な環境作りを行なっている。		

(別紙4(2))

事業所名: こうのすケアセンターそよ風

目標達成計画

作成日: 令和 3年 10月 18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	新入職員や夜勤専門の職員もおり、避難訓練には参加したことが無い職員もいる為、その点においては災害対策について不安がある。	災害に備え、できる限り全員が訓練に参加し、災害発生時にその場にいる職員が適切に避難・救助などの対応ができるようにする。	年間の訓練計画において、今まで参加した事のない職員を優先にできる限り全員が避難訓練に参加できるようにし、その時参加できなかった職員も報告書を通じて対応方法を学べる機会を設ける。新入職員に関しては、入社時の研修で災害対策のマニュアルや避難経路などの確認を行う。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。